

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 米・琉球関係者内話

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43211

王流球政府關係者

卷一

8月5日

シナ	カヒ	万澤
注 意		
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。		
電 信 写		
総番号(T A) / 7487 69年4月25日16時17分 ト 本省 69年4月25日17時25分 発着 東北		
外務大臣殿 岸 伸緯事務所長		
西鉄幹部の内訳(速)		
① 166号 平(秘報)		
(総務長官へ、第166号) 神奈自由民主党は26日那覇市内で総務会を開催する。これに際し西鉄幹部が25日往訪したオオモリ内訳とく3以下通り ある。題れつき取扱す。		
1. 総務会の議題は3つあり、(1)本土自民党の県連支部移行について承認を取付けたこと、 <u>移行時期は執行部一任を取付けた</u> こと、 <u>走りしている</u> が、11月の総選挙前後を目標としている。(2)党規約改訂して専門部の副部長を複数すること、これによつて從		
乗議員中心に運営されてきた党内地方の活動家を登用することに如じた。(3)党の体質改善のため登録党员制度を採用する。本年中25000人を目標に党员獲得を行なう。		
2. 屋良政権に対するは、来年の安保改訂期を目標に対策の構えを盛り上げていくという長期の展望をもつて、(1)現在立法院で審議中の補正予算についても、(1)主席が公約したトン当たり15セントのナビ作奖励金が計上されていない。(2)人事委員会勧告より2%高い3.35%のベアが公務員の賃上げによってますます財政の硬直化を進行する、といった指摘が党内にあり、政府を危機にすることに行こう。		
3. 党運営のための自主財源開拓が目途としているが、5月早々から会派を遊説して		

<p style="text-align: center;">注 意</p> <p>1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。</p> <p style="text-align: center;">電信写</p> <p style="text-align: center;">(J)</p> <p style="text-align: center;">(25/22.00 堂の勝首席事務官(連絡済)電信稿)</p> <p style="text-align: center;">外務省</p>	<p style="text-align: right;">万博</p> <p style="text-align: right;">ソガヒビ</p> <p style="text-align: right;">大政幕外官房</p> <p style="text-align: right;">次次 臣官官察審長 賃文書賃給</p> <p style="text-align: right;">人電厚計</p> <p style="text-align: right;">参調析 支領移 參領旅移</p> <p style="text-align: right;">ア 参北京經 最 参北北經 米長 参一二 中南書歌 参西東洋 長 西裏</p> <p style="text-align: right;">近ア長 近ア經 次總經國方 長經協長 參資統二 參政技二 國一理 參參協規 參政經科 董社專 長信員文長 一二</p> <p style="text-align: right;">總番号(TA) 19950 69年5月18日 18時45分 69年5月20日 20時16分 本省</p> <p style="text-align: right;">主 管 登 着 米北一</p> <p style="text-align: right;">外務大臣殿 岸 沖縄事務所長</p> <p style="text-align: right;">FINN日本部長との対談に関する平書記長等の内話について(連)</p> <p style="text-align: right;">第193号 平(秘) 至急 (總務長官へ第193号)</p> <p>1. 社会大衆党のアサト委員長、平書記長、チバナセイシン会長は10日来島中の下 NN日本部長と約1時間にわたりて会談した。</p> <p>(注) 会談内容について立会ったUSCAR 涉外局側は「社大党の主張を聞くだけであつたわけではない。また10日付地元紙はFINN日本部長が沖縄返環ワメド付けに関し、「11月の日米交渉で</p> <p style="text-align: right;">外務省</p>
--	--

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

確実なメドがつけられるかも知れない。
と社大幹部に語った。かの如く報じ
日本部長は希望的予測を述べてゐるところだが、
その印象について平書記長
が「これは大森に内話也」ところ、以下の
とおりなる。
概要。

(1) FINN 日本部は從来あった、アメリカ
人の中では最も真剣にかつじっくりと話を聞いてくれたという印象
をもつた。彼は沖縄返還について、軍事
時と政治の調和を計ると語っていた
が、アメリカの政策担当者としてその
点に深刻なジレンマを感じてゐる風
であった。

(2) 返還のメドがつくかどうかについ
ての FINN の発言については一応
の前進だと受取つてゐる。つまり
今年の日米会談のコミュニケで「兩
年3年のメド付」と言う佐藤総理の主

-2-

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

張が折り込まれたにもかかわらず、その後にスナイダー日本部長がそれを打消
するような発言をしたが、今回日本部長が
「兩3年のメド付」を前提とするような
発言をしたことに好感を持ったのである。

2. ニの平書記長の感想に密接に関連する政府屋良主席の周辺でも類似した好印象を
FINN 氏に抱いたようであり、オオシ
マ歩外広報部長は同じくオオモリに対し
FINN 氏の人柄についての称賛を述べ
た後、FINN 氏が (1) 沖縄問題の解
決にあたっては政治と軍事の調和を図り
やするべきはやすって考えたい。(2) 国
務省でも大いに関心が高まつてゐる
から今後其沖縄についての調査研究資料
収集に務めたい。

と述べたところから「米政府内でも返

-3-

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

還交渉に備えての準備が具体的に動いて
いるとの印象を得た」と内語している。

- (3) -

外務省

アメリカ方面
参事官
北米オ一課長

事務連絡第 82 号
昭和44年6月6日

外務大臣 殿

日本政府沖縄事務局長

資料の送付について

往電第 246 号に因り、下記のとおり別添 1 部
送付す。

記

愛知外相、ロジエース 国務長官会談後の屋良行政
主席談話。

要處理	
首席	官
通	交
涉外	課
漁	監
航	管
科学	協
連絡	調
調査	各
力士	科
扇	研

44.6.9

日本 政府

1212

昭和四十四年六月六日

■愛知外相・ロジヤーズ國務長官会談後の
屋良行政主席談話

琉
球
政
府

沖縄百万県民の悲願、そして全日本国民の期待を抱つて、沖縄の「施政権返還」を第一義の課題とし、これを表面に押し出しての返還交渉の第一回準備会談に誠意をもつて望まれた愛知外相の~~ご尽力~~に敬意を表したい。

今回の会談で愛知外相はニクソン大統領、ロジャーズ国務長官その他の方々に対して「沖縄をすみやかに返還してもらいたい」と率直に要望しておられる。

今回は、第一回の会談であるだけに、今回の会談で結論がでるものとは予想していなかつたので、その会談の結果は予想の域を越えていない。

ただ、この「沖縄返還」問題は日本側からすれば当然の要求であるべきものが、外相の発言にあるとおり、米国に対するお願いの形になつてゐることに不満である。

特に返還を一日も早くと主張する沖縄県民の要求や心情にてらしたとき、今回の会談は迫力に欠け、物足りなさをおぼえるものである。この会談のまとめとして受けとられることは、

(1) 外相は日本側のいい分を伝えた。
(2) 十一月佐藤総理訪米の際、沖縄問題は解決されるという日米双方の意見が一致した。

(3) むづかしい問題をかかえたなかで、米国を土俵に引っぱり出したが、これから交渉が問題であり、しかも交渉の内容は楽観をゆるさない。

(4) 返還の際の安保適用で事前協議の運用が問題になつてゐる。
(5) 米国は、沖縄問題について、とくに経済問題とアジアの防衛問

題をからましている。

(6) 核問題については、結論がでなかつた。

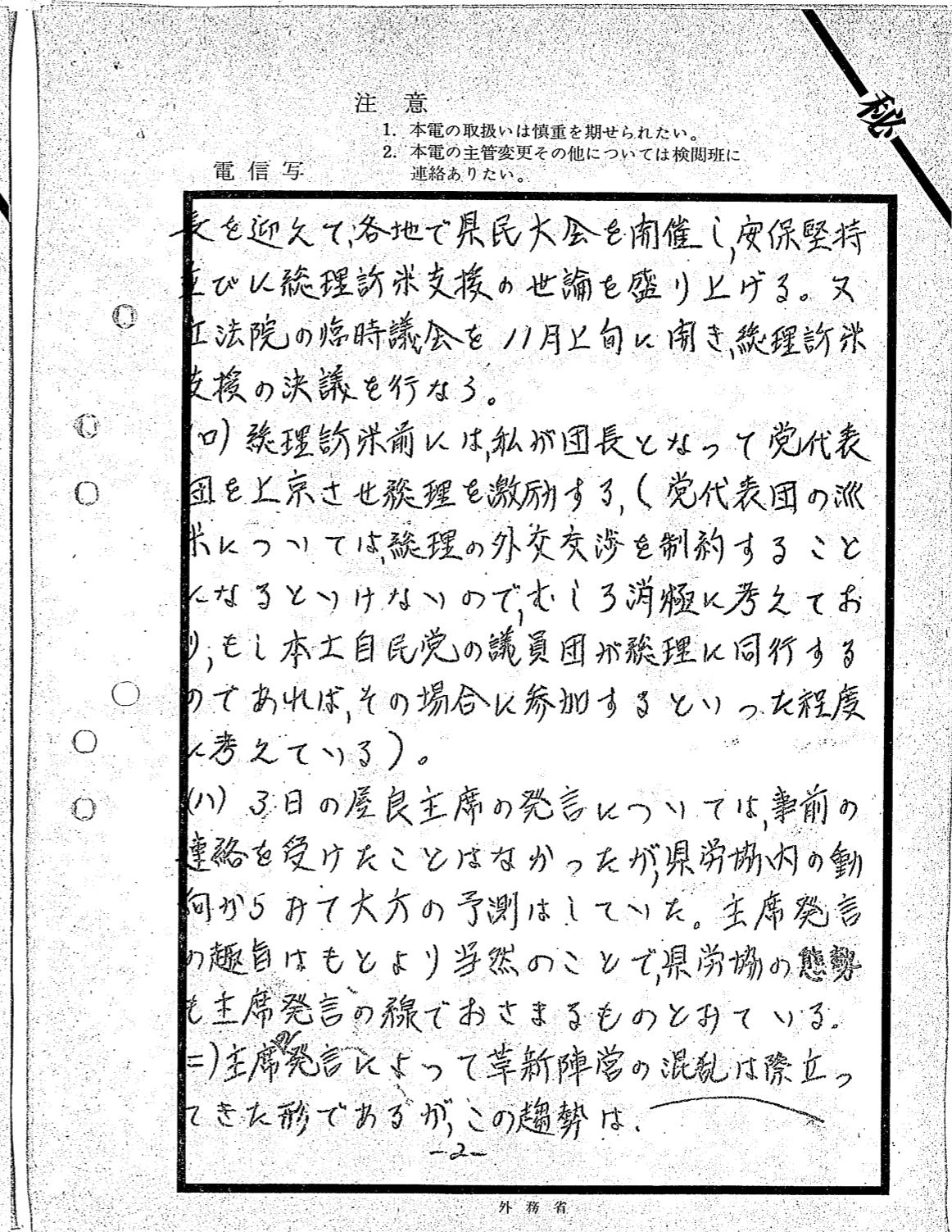
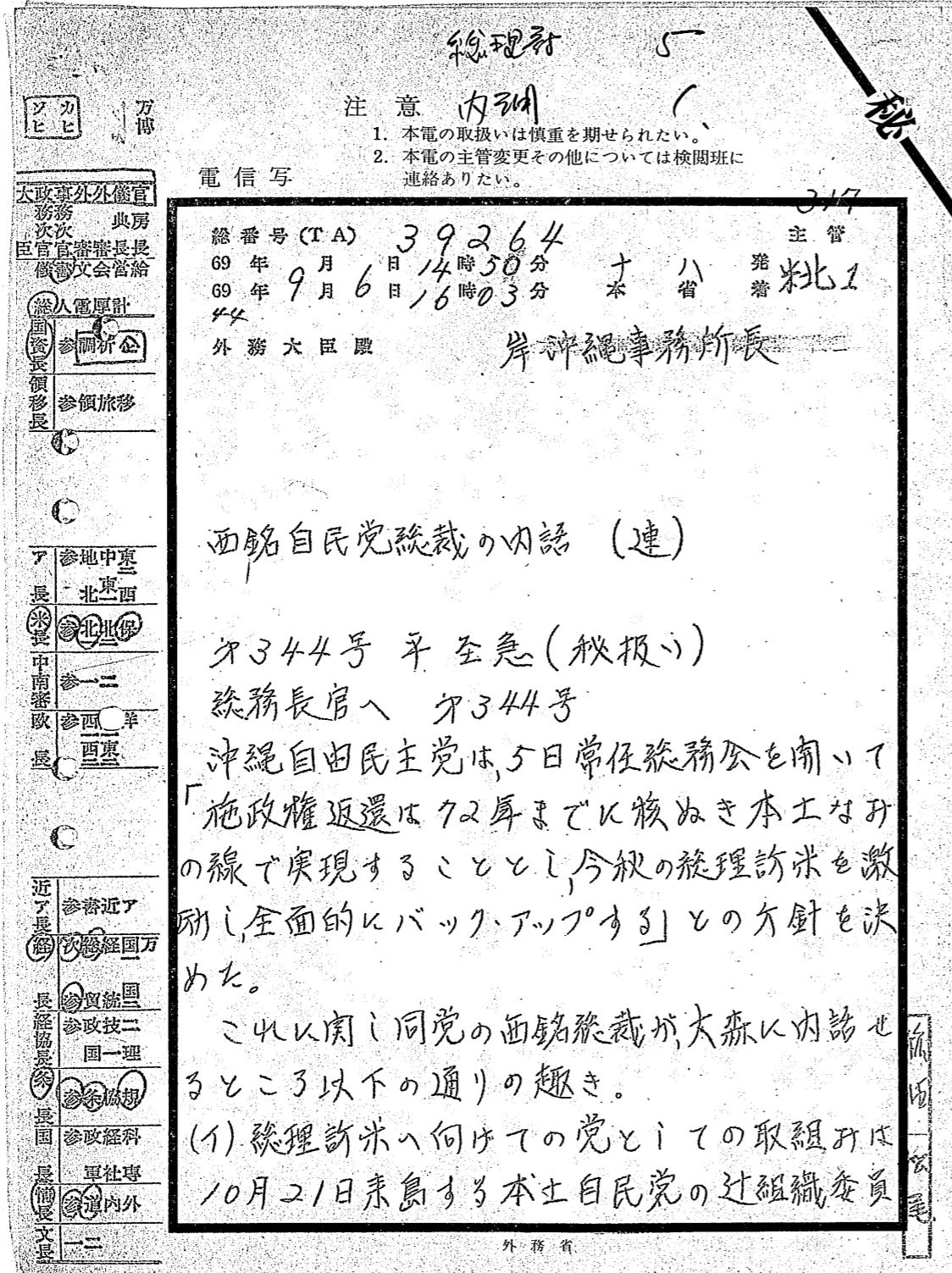
以上のことから、沖縄問題はきたる十一月のニクソン・佐藤会談で決定的結論がでて決着のつくことが明らかになつたが、問題はこの内容である。

とくに注目されることは、米国は沖縄返還問題を経済問題とアジアの防衛問題にからませようとしているが、これは、沖縄を引継ぎ犠牲に供する危険をはらんでいる。

こういうことから、今後の交渉の結果が、沖縄県民の要求である「即時無条件全面返還」がかなえられるかどうか樂觀をゆるさないものである。

又知外相と米当局者の会談の内容は「即時無条件全面返還」を要求する沖縄県民の主張とはほど遠いものがあるといわなければならぬ。従つて、我々は引き続き、われわれの要求を日米両国に強く要求し、今後の交渉を見守つていきたい。

いよいよ始つた沖縄返還交渉において、今後最善の努力をかさねられるよう強く要求し、期待するものである。



注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

電 信 写

11月以降更に進行するであろう。こうした情勢にあって、われわれは復帰後の具体策造りのために、各党に向って政治論争の休止し、民衆の国民党としての協議会の設置(そこのうち社会党と人民党が脱落して行くことを予想している)の腹案を持っていますが、これを公表するためには、まだ十分の根拠を必要とする。

(木) 与党三次ならびに革新共闘は、国民党に対する対決の姿勢を正面に出して、漫説会を開催して迴ると言つて、それに対しては賛成です。特に、立法院審議において政府・与党が何等の協力依頼をして來なかつたこと、及び提出法案について不動産でありますなどを中心によく反駁する。

(水) 45年度百政援助費請求にあたっては、昨年のように尾長主席と一緒に上京する形は避けたままで主席に行政の長として交渉

-3-

外 務 省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

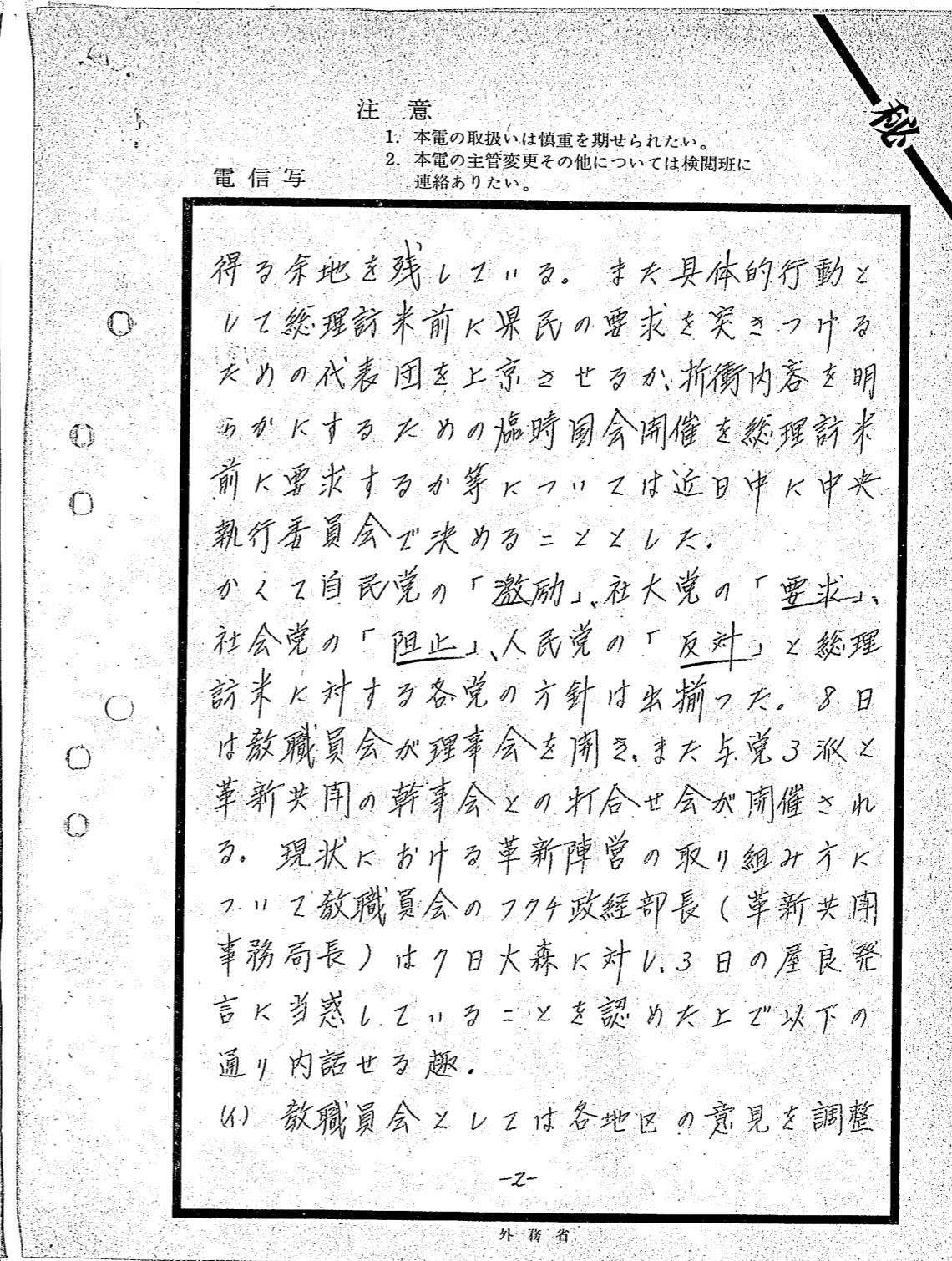
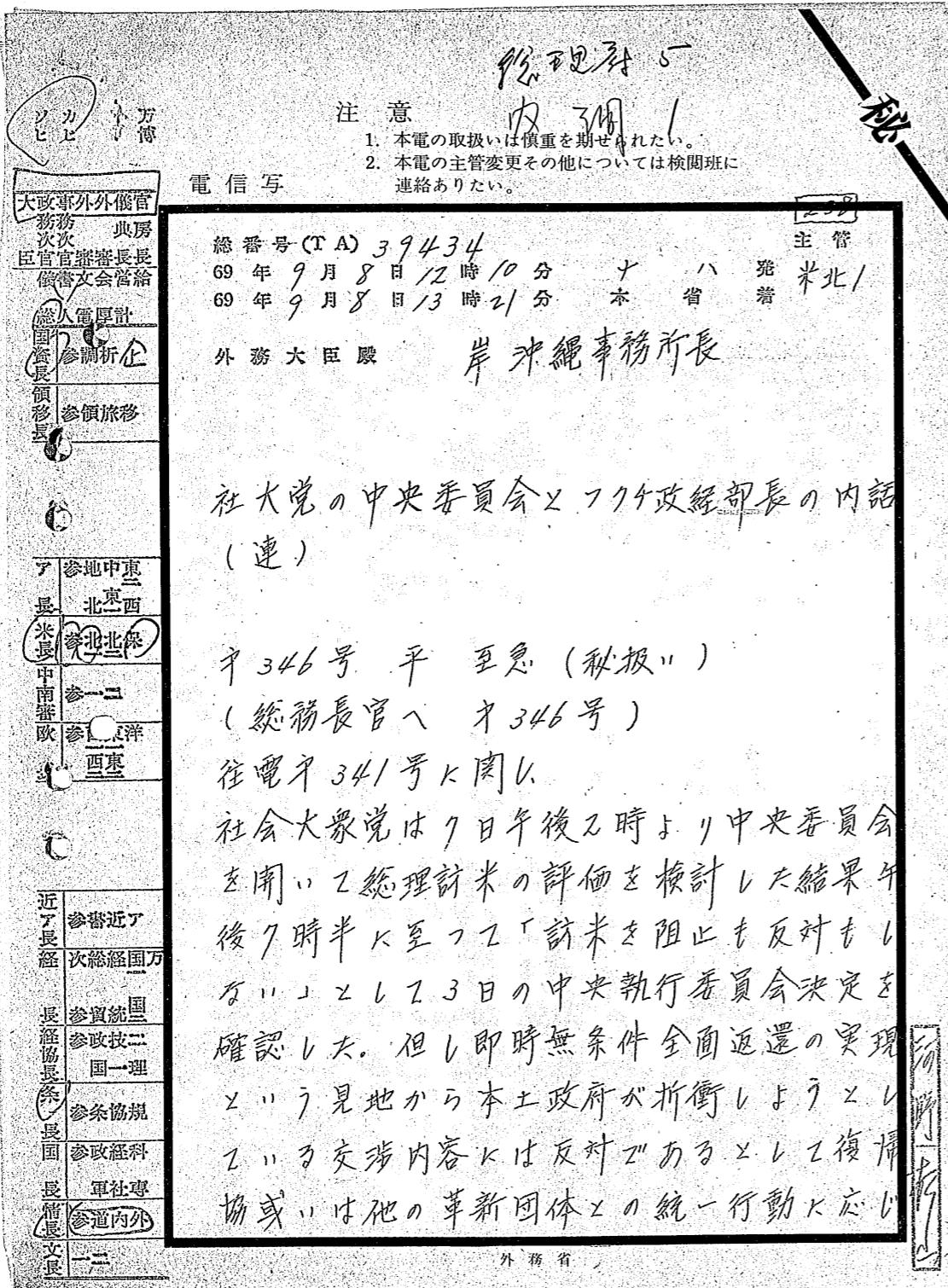
電 信 写

にあたってもういたい。私たちは自民党の手で予算を獲得したという実績をかじりとは言えまい。ただし、本土政府筋による情勢の厳しさについては十分予測している。

(3)

-4-

外 務 省



注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

オガニズムが先決で反対とか阻止とかいつた結論を出すことは急がない。寧ろ佐藤訪米に対する学习活動というか職場討議が遅れているのでその面での活動を盛上げてゆきたい。そしたら中から佐藤訪米に対する不満が一般化すれば具体的活動は自ら決まってくる。

(ロ) その意味で革新共闘が主催する演説会は是非成功させなければならぬので、当面与党各派との見解調整および演説会への動員体制に全力をあげる。

(3)

外務省

-3-

注 意 取扱

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

総番号(T A) 44129
69年10月2日16時35分
69年10月2日18時50分
主 管
ナハ発着 水北1

外務大臣殿

岸 沖縄事務所長

フクチ政丞部長の内話(連)

ス367号 平(紙扱) 至急

(総務長官へス367号)

往還ス366号に関し

1. 復帰協が1日内走っていた11月序等行動要綱上について、2日、教職員会のフクチ政丞部長は本官に以下のとおり内証した。

(1) この行動要綱は「総理訪米の意図に抗議」よりも強いが、「総理訪米反対ではない。その中间と理解して頂いてよい。同盟系は復帰協の執行部にないのを、中央委員会になってみないと

外務省

シカヒ	万博
大政事外外儀官	
務務 典房	
次次	
臣官官審審長長	
衛審文會營給	
總人電厚計	
國	
參調研企	
長	
領	
移	
參領旅移	
長	
ア	參地中東
長	東北西
參	北北保
中	中一二
南	參西洋
參	西寒
歐	
長	
近	參書近ア
ア	長
經	次義經國万
長	參賈統二
通	參政技二
協	國一理
長	參參聯
參	參參聯
國	參政經科
長	重社寒
管	參道内外
長	二
文	

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

同盟系の態度は分らぬが、強い反対はないと思う。これが現在の復帰協内部における最大公約数的な意見である。(教職員会の9月8日の支援(政情情報そのク9参照)よりも強くなったよう)に思うが、と質したのに対し)教職員会の方も近く理事会で復帰協の線に修正されるだろう。

(ロ)「核抜き本土のみ」に反対しているわけではない。是非そうあってほしいと願っているのであるが、「総理訪米の意図」というのは形式は核抜き本土のみでありながら、実質は核と容認し、事前協定の彈力的運用によって自動発進と許し、安保体制を強化する結果と有り、そういう返還交渉の内容と方式とに反対しているのである。後って、

-2-

外 務 省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

復帰協の運動は総理訪米前にあっては実質的な「核抜き本土のみ」とからくるよう強い姿勢で対米交渉を行なうよう要請する意味と有し、総理訪米後には(復帰そのものには飽くまで反対しないのであるから)復帰後ににおける核基地、安保に対する反対闘争へと転換していく伏線となる。

返還交渉にどのように取組むかについて(本土政府の「核抜き本土のみ」の線に気勢を殺された面もあって)若しい立ち遅れを見せていた。沖縄の革新団体も10月に入つて漸く態勢の建て直しにござつたわけであるが、その内情は(本土政府の挙げる「核抜き本土のみ」はじまかしてあって、実は

-3-

外 務 省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

安保体制強化の意図を有するものだとする)外から与えられた「情勢分析」にショックを受けて狼狽気味に「総理訪米の意図に反対」の線で辛じて組織の統一と保つものである。スタートの遅れた大衆運動が11月総理訪米の時期までにどの程度まで底辺に浸透し盛り上がりを見せるかが今後のポイントとなる。しかし、最近「琉球説会」など沖縄の一部に見られる復帰尚早論に比べると裏貧的な「核抜き本土なサ」の実現を強く求めている。この運動は日米交渉上有利に作用する面もあることは否定できないところであると存せられる。

(3) -4-

外 務 省

万 博
ソカヒビ

大臣事務官
次官
主官
長官
議會會長
總人權計
國
資
參
國
長
領
移
長
參
領
旅
長

ア 參地中東
長 北東西
米 參北北界
中 参一二
南 參西洋
歐 參西
長

近ア 參書近ア
長 (ソ) 參經國万
長 參貿易二
經協長
條 參委協規
長 国 參政經科
長 軍社專
高 參道内外
文 長

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電 信 写

持運局
ハルメ

175

総番号(TA) 48015
69年10月24日17時15分
69年10月24日18時18分
主 管
十 人 発着 東北1
本 省

外務大臣殿 沖縄事務所長

主席の上京に関するオオシマ海外部長の内話(速)

第389号 平(秘)至急
(總務長官へオ389号)

星(火)朝し琉球政府のオオシマ海外部長が24日オオモリにて内話せるとこより下りの通りの趣旨。

(1) 総理訪米を前に屋良主席は上京して最後の要請を行ふ。上京日程は総理との会見を2日あるいは3日と希望しており、その前日に那覇をたら、滞在2、3日というふうに企らう。

(2) 今回の上京に当っては従来の主張を集

外 務 省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

電 信 写

約1ヶ月文書を携行することになったが「要請書」であつて「質問書」ないし「要求書」ではある。「要請書」の内容は現在我々手元で起草中であるが、(1)施政権の返還、(2)基地の態様、(3)復帰後の経済不安の解消といった物立てにならう。

(3) 基地の態様については基地反対、安保、即時全而返還という原則をうなぐが、安保条約の適用下で米軍基地が位置される場合には最少限“本土各县と差別のない”取扱いを要するニューアンスもありこだわると考へている(この場合にも本土の真社会のいうようす“完全本土化”といふ表現はどうか)。

(4) 総理訪米直前にかかるべ老人が返還交渉の状況を主席に説明に来てくれたのは結構なことだ。主席としても交渉内容を

- 2 -

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

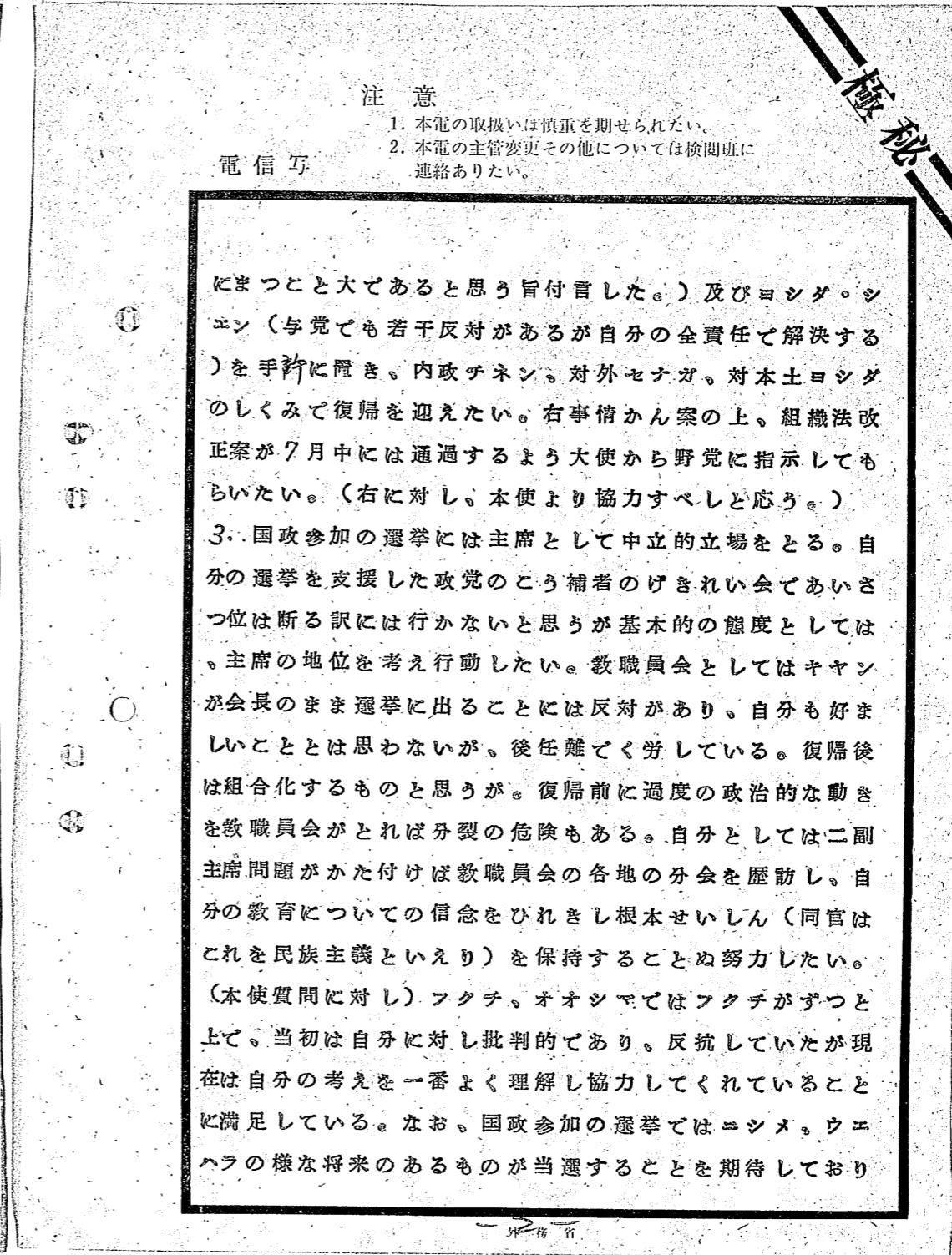
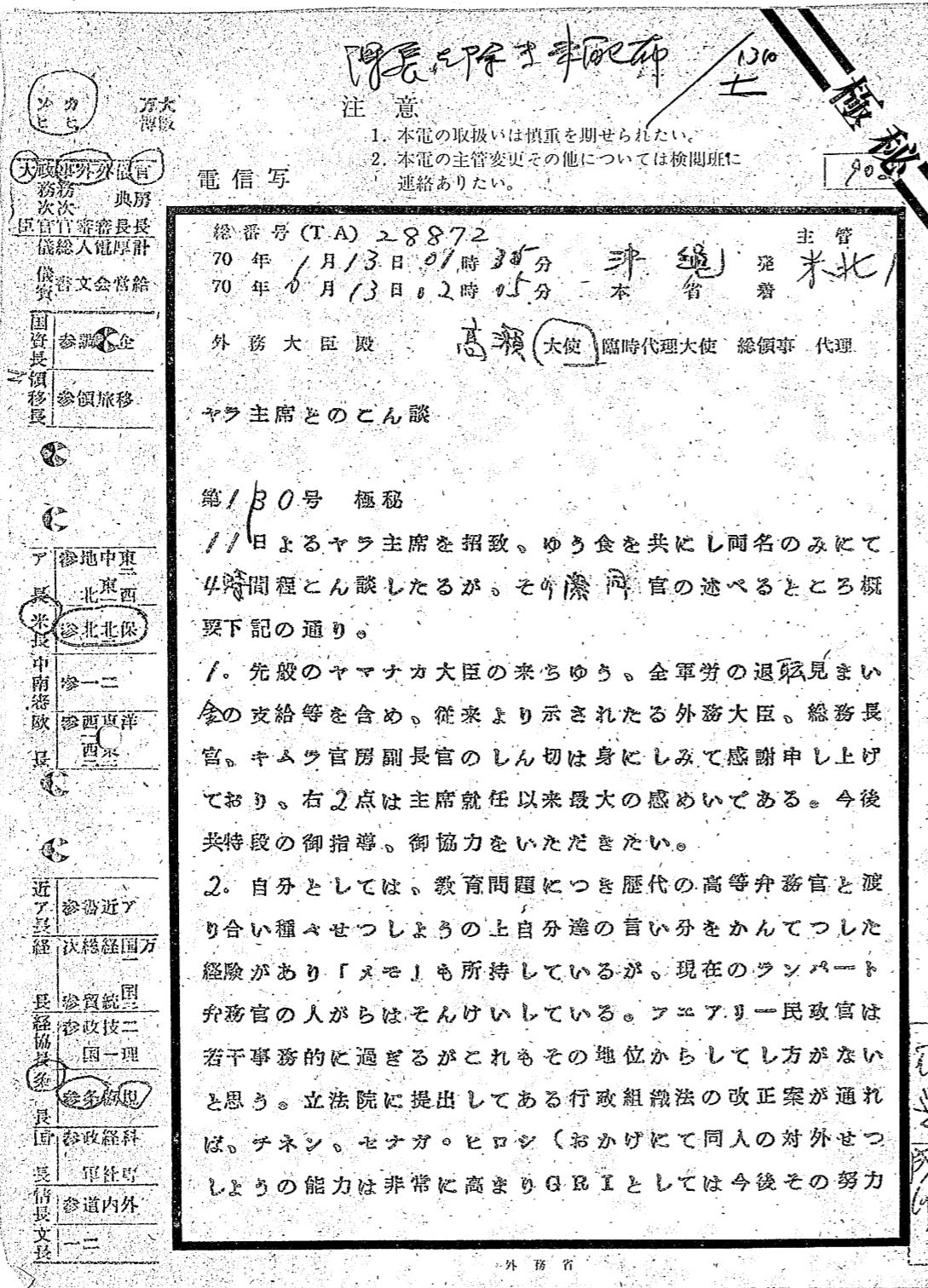
電 信 写

ナして多く知つていこうこれがコミュニケーション時の対応上有益である。(既に11月22日には各マスコミから“こなしきれいいぐる”取材申込がきてる)

(3)

- 3 -

外務省



注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検査班に連絡ありたい。

電 信 写

。キヤン及びニシバ。アサトの当選は確実と思う。
4. 本使より、おきなわの近代化、工業化のためには現実、具体的なるプロジェクトの適正なる処置、また急速なる実現がん要にして、シモジ島パイロット訓練飛行場、本邦のアルミ工業五社の進出、せきゆのちよぞう、せいせい、マツシタの工場開設、地下ガスの工業化、センカク列島の調査等の現状に言及、その対処方につき努力すべき旨を説示したるとどろ。従前に比し経済問題についての理解度及び熱意においてはるかにまさりおり。うめ立地、水資源、公害、港湾等につき前向きの見地よりする議論を行はいおきなわけん民ふくしのためになるとの前提において諸懸案の急速なる実現への努力を約した。
5. りゆうきゅう政府のあか字財政については、自分の就任前からあか字のるい積が始まっているが、自分の責任と思い。本土政府、米側にも種々お願いしている。米側のれいたんな態度は復帰までの施政権者として如何かと考える。ただ、おきなわけん民のふくしのための支出があか字解消のためという理由で打切られることは困るので、あか字解消を計りつづけん民のための行政を行ない得るよう御協力と御指導を得たい。
6. 冒頭、自分のヤマナカ大臣に対する感謝の気持ちを述べたが、来る19日の再度の御来らゆうの際は、自分が大

- 2 -

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検査班に連絡ありたい。

電 信 写

臣のお供を()^{高島}訪問することはひかえたく、要すれば農りん局長をお供させることにする所存である。右に対し、本使より右にて可なりと述べ置けり。

7. 本使より、教育、特に初等、前期、後期中等教育の徹て的なる振こうと完全なる一体化、工業化を主体とする産業開発、離島問題の徹て的解決が復帰についての根本的な方針と考えらるるところ。貴見如何と聞いたところ、全面的に養成にして教育の振こうを大本の一とされたことにけい意を表すと述べ、今後共右方針にて共に進みたしと述べた。

なお、改めて本使より、高等弁務官、民政官に対しだ單に要請し、または抗議する態度をとることはおきなわけん民のためにはならず、共同目的をすい行する同志としての態度をとること。換言せば、先方の立場も理解し同情を持ち協力することによる事態の収じゆう發展をも計るべきことを説示し、同官も右に十分なる配慮を払うべきことを約した。

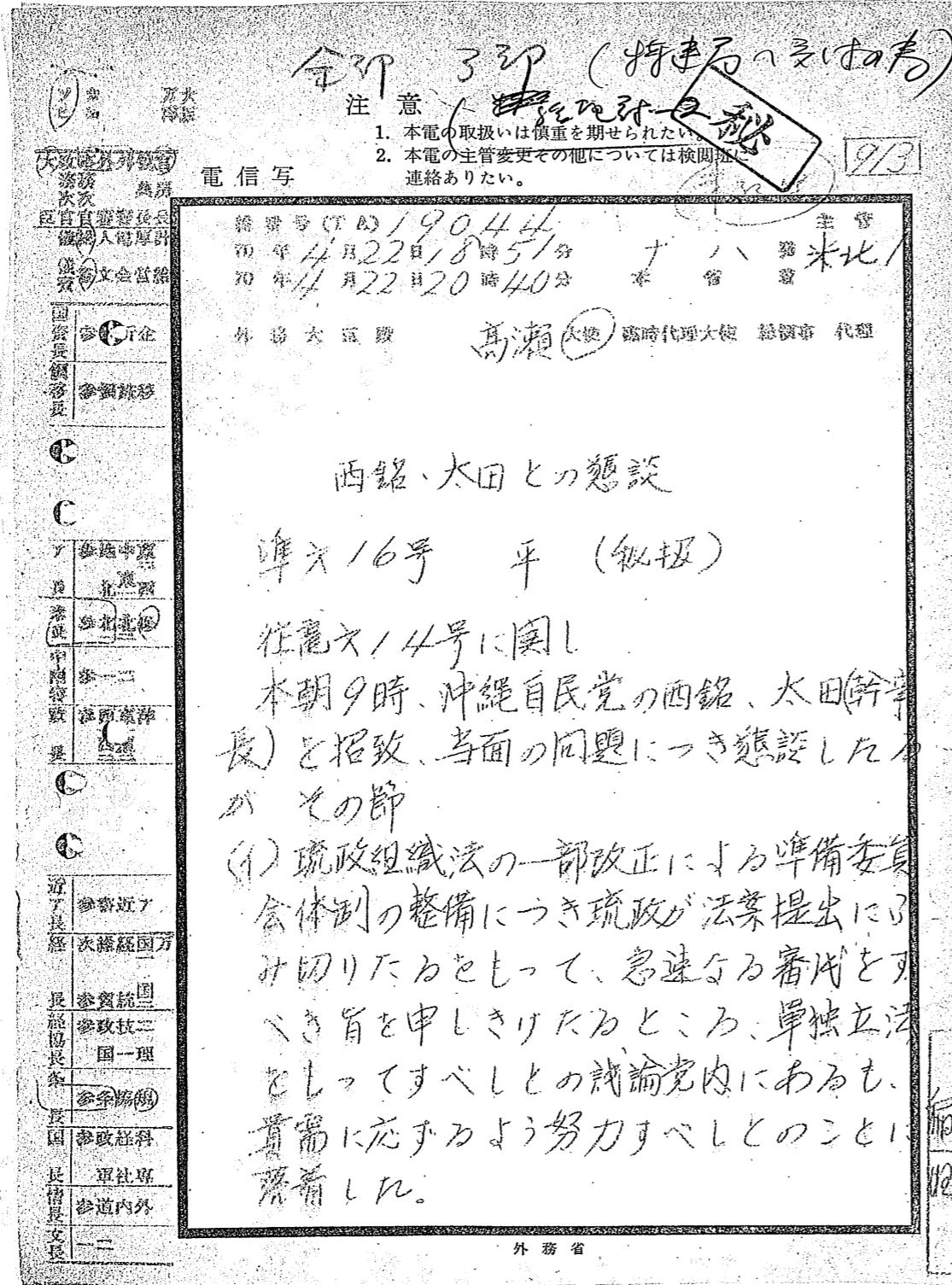
[3]

- 4 -

外務省

シ カ ド	万大 博飯
大政事外 外務 次次 区官宣審長 儀給入電厚計 書文会管給 資	
国 資 參調企 長 領 領移 員	
ア 參地中東 長 東北二西 米 參北北保 中 用 參一 歐 參阿西洋 威	
近 ア 長 經 次總經國万 長 經協長 參政技二 國一理 參商協規 國 參政滋科 長 軍社專 長 參道内外 文 長 一一	
注 意 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。	
電 信 写	
案番号(TA) 38419 70年 A月 5日 19時 15分 神總路米北 / 70年 A月 6日 00時 16分 本省着	
外務大臣殿 高稲大使 臨時代連大使 総領事 代理	
主 席 内 話	
第253号 極秘	
往電第252号に関し プレヴコム会議終了後マク主席は本使公室において本使に対し、当面の諸問題につき内話するところがあつた。	
1. 副主席二人制の問題については2年越して努力を行なつたが、立法院の同意を得ず自分の復帰対策の体制の1番基本的なものがだめになるのでくのうしている。本件は自分のしごとをやる上で1番かんじんなものであるので何とか実現したく大使の特段の御じん力をわざわししたいと述べ、本使は更に努力をして見た旨忘じておいた。	
2. 軍労務者の今回の整理は非割当資金の分が456名あり、右は米国財政上の理由で整理されるのではなく、当地の事業上の理由によるので米側の理由付けは理解し得ず、米側はストライキをやらせないよう努力してくれと言うのみでこの種理不じんな整理を行なうとしているのでファイアリーに面会。重ねて詰合ひをする所存である。	
3. 米軍人の犯罪問題は、自動車のただ乗り、運転手から	
極 秘	
電 信 写	
金品をうばうことよりゆきゆう側所有の機材の破損等が他に比し急激に増大しているので確かに面の事情があると見ていて、なお、地図に事件発生地点を書き込み、ファイアリーと話しているが先方は事件数の増加は確認出来ぬと言うだけで話は進展しない。これも改めてファイアリーと話し合う予定である。	
了	
-2-	
外務省	

ソヒ	カヒ	万次	博阪				
外政事務官監査課 次長 官員監査委員長 監査人監査計 監査次会議給 資							
国資長 参謀企 領移長 参領旅移							
参事官中東 長北西 米長南北保 中南参一二 総務参西東洋 長							
近ア長 参書近ア 経次長 國方							
長貿易長 参貿易 経済長 参政技二 國一理 參事官監査							
国長 参政經科 長軍事 参道内外 文長一二。							
外務省							
注 意							
<p>1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。</p>							
電信写							
<p>総番号(TA) 70年7月16日10時15分 → 南北 70年7月16日17時10分 本省 発着 東北</p>							
<p>外務大臣殿 高瀬木直 临时代理大使 総領事 代理</p>							
<p>フィアリー民政官談話</p>							
<p>第201号 極秘</p>							
<p>1. 昨14日よりの外務官えん席において本使よりフィアリーに対し同官の提出したるプロポーザルは P R E P O M の討議の基盤となるべきものにして結構なりと述べたるが、原案には P H A S E Ⅳ。として復帰後の事態に対処する部分が存在したるが、外務省の意見をとり入れただし書として過渡的措置のるべきことをもう入するに止めた次第である。右は法理的には想定される問題であるが全体的にはなくてよいと考えている。と述べた。</p>							
<p>2. なお、フィアリーは先般の米大使会議につき若干の COMMENTを行なつたが、本使のみみそとに残りたるもののは</p>							
<p>(イ) ホンコン米総領事は中共の生産性は1950年代末期と同一にして人口増も他より見て現在はきゆうほうの状態にあり、必然的に对外融和の施策をとらざるを得ずと見るところ、(ロ) アジア諸国に対する「コンキットラン」を守るべきというのが参列大使の共通の主張で財政上</p>							
外務省							
注 意							
<p>1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。 2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。</p>							
電信写							
<p>の理由よりする経済及び軍事上の援助の削減は好ましくないとするものであつた。</p>							
<p>(ハ) ヴィエトナム、カンボディア等の切迫した問題が多くあり、おきなわについては復帰の決定により既にかた付いたと見られているものの如く、自分に対し説明を求める旨の発言はなかつた。もちろん自分も若干の発言をなしたが大統領に対する要請事項の起草要員となりなかなか多ぼうであつたし、またきよう味あるレジとしました。</p>							
(3)							



注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

電信写

(1) 吉田嗣延副主席については自民党内には反対の議論あるうえ、屋良政府部内、支援政党においても必ずしも賛成しあらず、その実現のために特段の努力を要すべしとの趣旨を述べたので、本便としては日本政府のペイント後を行なわしむることともするにつき、至急前向きに検討あるよう申し述べ、而名とも存と了承した。

(2) いわゆる琉政財政硬直問題については、その重大なる意義に鑑み、單に党利党略のみによりて取扱うべき問題でなく、深く琉政の体制をも考慮し、専門家による検討を左て、この複現象の消滅と目図し改善を図るべきことを申し述べ、善処方を要請しておいた。

(3) 国政参画については参議院への

外務省

注 意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検問班に連絡ありたい。

電 信 写

立候補は拳党とあって比安武を推す
ことと、党内部において因まゝ、自民
党のイナミネはむかむか苦戦するこ
とを自覚しあり、また衆院について
は本土自民党の指示もあり、候補
者を3名（最悪の際は2名）にしほり
立選を期することとしたく、また今
次選挙は党本部に甘えろことなく、
全力を尽すべしと述べていつので
落選情勢についてはかなり正確な
認識を有するよう思料される。

(3)